

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：32708
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究期間：2019～2023
課題番号：19K21670
研究課題名（和文）ケニアのスラムにおける映像民族誌及びデジタルアーカイブのメディアアートの拡張

研究課題名（英文）The Extension of Video Ethnography and Digital Archives in the Slums of Kenya by Using Media Art Method

研究代表者
野口 靖（Noguchi, Yasushi）
東京工芸大学・芸術学部・教授

研究者番号：50287869
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,800,000円

研究成果の概要（和文）：一般的にスラムを調査地とした場合、衛生問題、インフラの整備状況、居住権という、居住環境改善の視点で語られることが多いが、スラムにおける等身大の人々の生活実践を読み解くには、アートや人類学と建築学の複合的な視点が必要である。よって、次の3点に焦点を絞って研究を進めた。(1)スラムの居住環境を記述するデジタル映像アーカイブ、及び(2)スラム住民のライフ・ヒストリーの民族誌映像では、経済成長著しいナイロビの底辺にいるスラム住民の、複数世代にわたる移動と生活環境のあらゆる変化と工夫の通時的状況を、現状に至るまで明らかにした。(3)最終的にメディアアート展示としての研究成果を公開予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
全天球パノラマ映像やVR（仮想現実）などの直感的な映像体験の提供は、識字率が低い調査地への研究成果還元役に役立つ。また、スラムの各地域は、区画の構成、建造物、建材などを見てもそれぞれ特徴があるが、各地域の横断的な調査例は希少であることから、スラムにおける居住空間利用の実態を、人類学および建築学の視点により把握する基礎資料となる。さらに、スラム住民のライフ・ヒストリー映像は、住民参加型の住宅環境改善やコミュニティ形成のための定性的資料となる。

研究成果の概要（英文）：Generally, when researching slums, the focus is often on improving living conditions, such as sanitation issues, infrastructure development, and housing rights. However, to truly understand the everyday practices of people living in slums, a multifaceted perspective that includes art, anthropology, and architecture is necessary. Therefore, the research will focus on the following three points: (1) a digital video archive describing the living conditions in the slums, and (2) ethnographic videos of the life histories of slum residents, which will reveal the diachronic changes and innovations in the living environments and movements of slum residents at the bottom of Nairobi's rapidly growing economy across multiple generations up to the present. (3) Finally, the research findings will be presented as a media art exhibition.

研究分野：メディアアート

キーワード：メディアアート 人類学 建築学 政治学 ケニア ナイロビ スラム ムクル

1. 研究開始当初の背景

近年は、研究資料としてだけではなく、観せる映像による映像人類学や民族誌映画が盛んだが、当該分野における映像の使われ方は、映画や映像の空間展示(ビデオインスタレーション)が主流である。しかし、民族誌映像はメディアアートの手法を導入することによって、より直感的な映像体験となり、調査対象者との共有及び人々への還元が円滑になる可能性がある。また、一般的にスラムを調査地とした場合、衛生問題、インフラの整備状況、居住権という、居住環境改善の視点で語られることが多いが、スラムにおける等身大の人々の生活実践を読み解くには、アートや人類学と建築学の複合的な視点が必要である。

2. 研究の目的

次の3点に焦点を絞って研究を進める。(1)スラムの居住環境を記述するデジタル映像アーカイブ、及び(2)スラム住民のライフ・ヒストリーの民族誌映像では、メディアアート、社会人類学、建築学のそれぞれ独自の追究・表現手法を開発しつつ、経済成長著しいナイロビの底辺にいるスラム住民の、複数世代にわたる移動と生活環境のあらゆる変化と工夫の通時的状況を、現状に至るまで明らかにする。(3)メディアアート展示としての研究成果公開では、3分野の複合メディアによる公開および展示を行う。

3. 研究の方法

野口靖(研究代表者) 椎野若菜・井本佐保里(研究分担者) Charls N. Mundia および Dick Olango(研究協力者)の体制で研究を進める。2019・2020年度はパノラマ映像撮影およびドローン撮影(野口・井本・Olango)、住民のライフ・ストーリー映像作成(野口・椎野)を行う。また、2020年度にはWebのデジタルマップを作成(野口・Mundia)し、2021年度は学会発表およびケニアと日本での展示(野口・椎野・井本)を行う。

4. 研究成果

当初は、(1)スラムの居住環境を記述するデジタル映像アーカイブ、(2)スラム住民のライフ・ヒストリーの民族誌映像、(3)メディアアート展示としての研究成果公開を中心に研究を開始したが、ナイロビのスラムの一つであるムクルで2021年に行政による大規模な強制撤去が起こったため、(1)(2)に関しては、この一連の事件の前後での住民の暮らしの変化を記述することとし、最終的には以下のA,Bの2種のプロジェクトとして集約し実施した。

A. ナイロビのムクル・クワ・ジェンガで強制撤去により立ち退きを余儀なくされた後、元の土地に戻って住居や店舗を再建する住民のライフストーリーの記録をデジタルアーカイブとして展示する(Rebuilding Home and Dignityプロジェクト)。B. 再建の際に作成され

た建築アイテムを展示会場で再現する（Creativity in Rebuilding プロジェクト）。

なお、新型コロナウイルス対応のため、(3)が当初の予定期間内に実施できていなかったため、2025年3月に成果公開展示を予定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 椎野若菜	4. 巻 26
2. 論文標題 「ハウスガールの人生を想う」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『フィールド+』	6. 最初と最後の頁 pp14-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 椎野若菜	4. 巻 67-5
2. 論文標題 「街の看板からジェンダーを読み解くフィールドワーク」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『月刊 地理』	6. 最初と最後の頁 50-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 椎野若菜	4. 巻 67-5
2. 論文標題 「コラム：『現場で育む フィールドワーク教育』のススメ」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『月刊 地理』	6. 最初と最後の頁 59-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小田珠生，野口靖	4. 巻 27
2. 論文標題 「コンパクトライフ・プロジェクト」に関する一考察 言語生態学的視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京工芸大学芸術学部紀要	6. 最初と最後の頁 45, 54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「父系社会に生きる女たちーアフリカと日本の伝統社会と現代」
3. 学会等名 FENICS x 志縁の苑 x ジェンダー・セクシュアリティ人類学研究会 共催サロン
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Wakana Shiino
2. 発表標題 'Distorted Sexual Knowledge-A case of Kenyan Primary School Students from MHM Survey'
3. 学会等名 MHM Workshop " DIVERSIFYING MENSTRUAL HYGIENE MANAGEMENT EDUCATION IN UGANDA " (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Wakana Shiino
2. 発表標題 'Transmission of sexual knowledge- tradition and intergenerational disconnection in rural Kenya'
3. 学会等名 【TUFiSCo-ILCAA International Symposium】Sexuality in Contemporary Africa: Tradition, Education and Practices 現代アフリカにおけるセクシュアリティ: 伝統、教育、そして実践 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井本 佐保里
2. 発表標題 都市を生き抜くための空間-ナイロビのノンフォーマルスクール
3. 学会等名 JIA 公益社団法人日本建築家協会【JIA国際委員会】(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Wakana SHIINO
2. 発表標題 House Girl's Life Plan in Nairobi: Reality and Dream
3. 学会等名 ILCAA International Zoom Symposium (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 Contemporary Gender and Sexuality in Africa: African-Japanese Anthropological Approach
3. 学会等名 African Potentials: Convivial Perspective for the Future of Humanity
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 椎野若菜	4. 発行年 2022年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 304
3. 書名 『月経の人類学—女子生徒の『生理』と開発支援』	

1. 著者名 増田研(編), 椎野若菜(編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 220
3. 書名 現場で育むフィールドワーク教育 (FENICS 100万人のフィールドワーカー4)	

1. 著者名 Christine Mbabazi Mpyangu, Wakana Shiino	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG, Cameroon	5. 総ページ数 364
3. 書名 Contemporary Gender and Sexuality in Africa: African-Japanese Anthropological Approach	

1. 著者名 Wakana Shiino, Ian Karusigarira, Soichiro Shiraishi, Kassim Mwanika, Chris c. Opesen, Piotr Cibobki, Enos Kitambo, Takuya Hagiwara, Revecca Babirye, Kithinji Kinyua, Tom Ondicho	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa(ILCAA)	5. 総ページ数 250
3. 書名 Youth in Struggles: Unemployment, Politics, Cultures and Singleness in Contemporary Africa	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	椎野 若菜 (Shiino Wakana) (20431968)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授 (12603)	
研究分担者	井本 佐保里 (Imoto Saori) (40514609)	日本女子大学・建築デザイン学部建築デザイン学科・准教授 (32665)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------